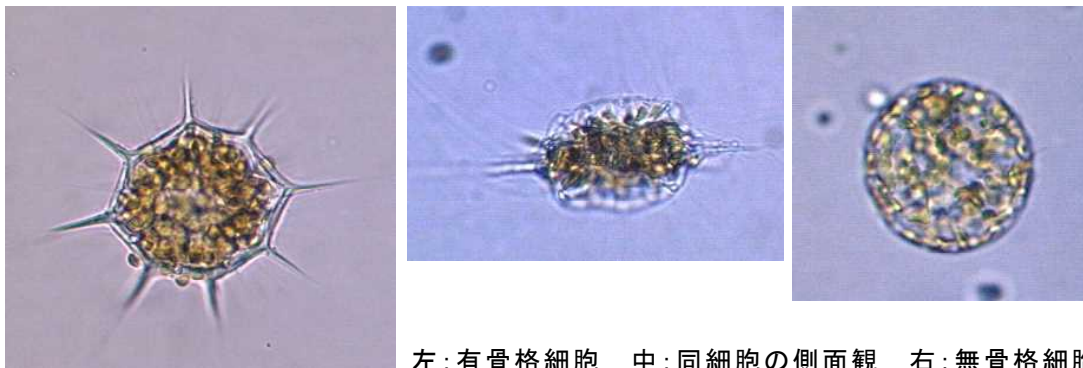


ディクチオカ オクトナリア(旧:ディクチオカ スペキュラム)

赤潮生物種 : = *Dictyocha octonaria*

= *Dictyocha speculum* Ehrenberg



左:有骨格細胞 中:同細胞の側面観 右:無骨格細胞

- 大きさ : 基環長さ約30 μ m(有骨格細胞), 直径約30 μ m(無骨格細胞)
- 細胞の形態・色 : 細胞質内に正多角形(主に八角形)の珪酸質の骨格からなる基環があり, その角から放射棘が出る。生活史の中で骨格を持つ時期と持たない時期があり, 形態が大きく変化する。
- 遊 泳 : あまり回転せずに, すべるように泳ぐ。
- 類似種 : 有骨格細胞では, 似ているものはない。無骨格細胞は, 従来球形シャットネラと呼ばれていたディクチオカ フィブラの無骨格細胞と類似するが, 本種は細胞内にほとんど色素がない点で区別できるとされている。
- 赤潮発生時期 : 3, 6月(有骨格細胞)
- 赤潮発生海域 : 鹿児島湾
- 出現環境 :
- 被 害 : 1992年3月に鹿児島湾で本種有骨格細胞が5,000細胞/mlに達し, 養殖ブリ2, 3年魚に1億円を超える被害が出た。
- 特記事項 : 鹿児島湾では春に数細胞~数十細胞/ml程度は普通に見られる。
へい死したブリの鰓は粘液の異常分泌や出血が見られ, 本種の骨片が多数付着していた。
国外では, 1983年5月デンマークで本種無骨格細胞の赤潮(最高細胞数15,000細胞/ml)が発生し, 同時期に養殖レインボートラウトがへい死しており, 本種が原因と考えられている。
なお, 本種有骨格細胞の致死細胞密度に関しては, 当センターが当該細胞培養株に対する養殖カンパチ(平均約2kg)の曝露試験を実施したところ, 約3,500細胞/mlでへい死が見られた。